

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校番 25	福山市立一ツ橋中学校
最終更新日		2026 年 (令和8年) 4月 17 日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	学びに向かう力・課題発見・解決力・自己・他者理解力
主体的な学びや地域と関わる教育活動は各校で進んでいる。一方で、その成果や目指す子供像の共有は十分とは言えず、連携は協力段階にとどまっている。今後は、発信の充実とビジョンの共有を図り、地域と協働してこどもを育てる体制づくりが求められる。	学力の定着が不十分で、特に思考力・表現力に課題がある。 不登校や登校渋りが微増傾向にあり、取組を継続している。 探究的な学習について校区で推進しており、児童生徒が自ら問いを立て探究する姿が増えてきている。	めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身に付けている。 自分で考え 判断し 行動することも
		中学校区として 統一した取組等	「自ら考え学ぶ授業」を実践するため、小中合同の研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的・探究的に学ぶことができる学校をめざす。 探究的な学習の充実に向け、小中で連携して9年間のカリキュラムを構想するとともに、「子どもの声から」「机からの脱却」「本物に触れる」(地域連携を含む)を意識した取組を行う。

III 自 校

学校教育目標
自ら輝く ともに輝く

現 状
<生徒> 学校生活においては、授業に積極的に参加している生徒は93.6%、スポーツが好きと回答した生徒は 74.8%、朝食を必ず食べている生徒は 90.1%、学校に行くのが楽しいと感じている生徒は78.6%であり、概ね良好な状況が見られる。 学習面では、1年生においては防災教育やいじめ未然防止教育を柱とした探究学習、2年生においてはホロコースト記念館やリトアニア大使館との連携を生かした平和学習に取り組んできた。 一方で、不登校生徒は全校生徒の 11.7% (前年度 7.7%) と増加している。改善傾向にある生徒もいるが、新たに不登校となる生徒も見られ、要因は多様である。 <授業> 総合的な学習の時間においては、主体的・対話的な学びにつながる教材開発を行い、地域と連携した「本物に触れる学習」を設定することで、生徒の主体的な行動を引き出している。 また、これらの学びが継続的に実施できるよう、カリキュラム・マネジメントを行い、3年間を見通した系統的な探究的学習を計画している。 一方で、教科における基礎的・基本的な学力の定着には課題が残っている。 現在、目標を明確にし、改善に向けた取組を進めている。

育成する 資質・能力	学びに向かう力	課題発見・解決力	自己・他者理解力
めざす こども像	中期 後期	・自ら問いを見いだし、課題の追究・解決に向けて、よりよい方法を選択しながら取り組もうとしている。 ・未知の状況にも対応しようと試みている。 ・事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追究・解決に至る探究の過程に主体的に取り組んでいる。 ・未知の状況にも柔軟に対応している。	・自分の得意・不得意や感情への理解を深め、自分に合った方法で成長しようとしている。 ・他者に流されず、自ら意思決定し、主体的に行動している。 ・他者の気持ちや考えを受け止めながら、適切に関わっている。 ・相手を尊重した対話や行動ができている。
研究	テーマ 内容等	確かな学力を身に付けるための授業づくり 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を含めた、バランスのとれた学力の育成を目指す。 これまでの校区における探究的な学習の成果を生かし、小・中学校9年間を見通した系統的・連続的な授業づくりを推進する。	
めざす授業の姿		【国語】文章を的確に読み取る読解力と、自分の考えや思いを伝える表現力を高める授業 【数学】数と式の領域における基礎的な力を高める授業 ※特に国語と数学に焦点を当てて取り組む。	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立一ツ橋中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	日常的に問題 発見・問題解 決ができる、探 究が自然にで きる力を育む	★	継 続	・生徒の主体的・対 話的な学びにつな がる授業づくりを 行う	・本物に触れ、探 究につながるカ リキュラムマネジ メントを行う ・教材研究を通 して、子どもへ の理解、教材 への理解を深 める	・学びに関する生 徒満足度 80% ・授業を年1回以 上公開する ・国語、数学では 設定した評価問 題の正答率につ いて学年末に県 平均を超える。									
3	SDGs 、 Well-being の理念の実現 を目指す 自己効力感を 育む		継 続	・地域と連携した 総合的な学習の 時間、生徒会活 動、学校行事等 の教育活動を整 える ・生徒の意思決定 能力を高める	・生徒が主体とな る教育活動を実 施する ・生徒が企画運 営する地域貢献 活動を充実させ る ・生徒が「自分で 決める」機会に 教職員が寄り添 う	・「仲間と一緒に 活動するのは楽 しい」と感じる生 徒 90% ・「地域のために 何かしている」生 徒 80% ・不登校生徒を前 年度以下									
1	生涯にわたっ て運動に親し む資質能力を 育む 健康に関する 適切な判断力 を育む		新 規	・運動の楽しさを 実感し、健康を大 切にする態度を 育む ・食事の重要性、 性に関すること、 インターネット依 存について理解 し、心身の健康の 意識を高める	・授業、体育的行 事、部活動等で 運動の楽しさを 感じる機会をも つ ・生徒が心身の 健康について考 える機会をもつ	・運動に関する調 査項目での肯定 的回答を 80% ・食育、性教育、ネ ット依存に関する 調査項目での肯 定的回答を 80%									
3	持ち味を生か し、生徒と共に 挑戦する教職 員の育成		継 続	・学校課題に対して 当事者意識を持 ち、全教職員集団 の知恵と意欲を 持ち寄って様々な 事案に取り組む	・主任、主事、担 当の責任を果た す ・定時退校の確実 な実施と確認	・教職員アンケー ト「自分の個性 が認められてい るという実感が ある」80% ・時間外勤務 45 時間以内 90%									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。